

外出中に大地震が起きたら？

- 1 建物・ブロック塀や電柱、自動販売機などから離れ、かばんなどで頭を守り、ガラスや看板などの落下物に注意する。
(その場にあった身の安全)



- 2 揺れがおさまったら、公園などの広くて安全な場所に避難する。



< 海や川の近くにいる場合 >

津波の危険がある場所にいる時は、すぐに近くの海拔5m以上の高台※や鉄筋コンクリート等の頑丈な建物の3階以上※に避難し、津波のおそれが完全に無くなるまで身の安全を図る。

※横浜市内における津波を想定



塾などよく行く所から家まで歩いて帰ったらどのくらい時間がかかるかな?

家までの距離が近く※徒歩で帰れる場合
※目安の距離: 10km以内

家までの距離が遠くて徒歩で帰れない場合

安全に注意して家に帰る

徒歩で帰宅するための支援拠点として、コンビニエンスストア、ファミリーレストラン等(災害時帰宅支援ステーション)や、ガソリンスタンド(災害時徒歩帰宅者支援ステーション)で、水、トイレ、災害関連情報を提供します。



▲協力店にはこのステッカーがあります

「帰宅困難者一時滞在施設」に移動する

横浜市では災害発生時に、どの一時滞在施設で受け入れ可能かなどの情報を、スマートフォンや携帯電話等で検索できる「帰宅困難者一時滞在施設検索システム」を整備しています。サイトにアクセスして施設の場所を確認しておきましょう。

横浜市 帰宅困難者一時滞在施設

検索



帰宅困難者一時滞在施設検索システム画面

★学校にいる時に地震が起きたら、先生の指示に従いましょう!★

家族との連絡手段について

大地震が起きた場合、電話がつながりにくなります。

そこで、災害用伝言ダイヤルや災害用伝言板、SNSの活用など、どんな手段で連絡を取り合うのか、あらかじめ家族で話し合ってみましょう。

また、公衆電話は地震が起きた時にも比較的つながりやすいので、よく行く場所の周辺に公衆電話があるか確認しておくことも大切です。

災害用伝言ダイヤル

伝言の録音方法 171 にダイヤル → 1 →

伝言の再生方法 171 にダイヤル → 2 →

被災地の方はご自宅等の電話番号を入力、被災地域以外の方は、被災地の方の電話番号を入力

※伝言の録音可能な電話番号は、固定電話及び携帯電話等の番号になります。なお、固定電話の番号は市外局番から入力する必要があります。

携帯電話の災害用伝言板は

災害用伝言板

検索

大規模な災害発生時などに、区内の災害情報などを発信する「[港南区災害情報ツイッター](#)」は

[港南区災害情報ツイッター](#)

検索

横浜市の地震震度情報をはじめ、防災情報を配信する「[防災情報Eメール](#)」は

[横浜市 防災メール](#)

検索